

004 雌阿寒岳

● 9月12日(木) 移動(吹上温泉から雌阿寒温泉へ) 天気・晴

・朝6時起床。夜中に雨が降ったらしく外はしとりと濡れている。今はもう雨は止んでいるようだ。

食堂へ行って牛乳にカレーご飯という面白い組み合わせで朝食を済ませた。この3日間食堂でいつも顔を合わせていたご夫婦とお話をした。群馬の前橋から来てここを基地に山を登っているという。昨日は赤岳へ行ってきて、紅葉が綺麗だったとのこと。滞在は今日までで、今日お帰りになるという。



・食事中に天候はだんだん回復し美瑛岳や前十勝岳が雲間に姿を現して来た。7時半に部屋を引き払い車の中の整理と清掃を行いこれからの行動に備えた。

・今日は雌阿寒温泉までの移動なので時間的に余裕がある。洗濯物も溜まったので、麓の上富良野町にある日の出キャンプ場でコインランドリーを使わせてもらうことにした。8時過ぎに3日間お世話になった白銀荘を後にして山を下り日の出キャンプ場へ。洗濯と乾燥で1時間以上かかる。天気が良くて気持ちがいいのでのんびり休憩できた。汗臭かった衣類がすべてさっぱりした。乾燥が不十分で半乾きの洗濯物を車内にぶら下げて乾かしながら雌阿寒温泉に向けて車を走らせた。南下するにつれて天気がどんどん良くなり南富良野町では快晴になった。懐かしい芦別岳がどんどん近付いてくる。狩勝峠を越えて鹿追町にはいり道の駅「しかおい」にちょうど12時に着いた。とにかく日差しが暑いので木陰を探して駐車。ここは広い駐車場の所々に木が植えてあり、涼しい木陰を提供してくれる。木陰のベンチに座りラーメンで昼食を摂りしばらくお休み。



・瓜幕、土幌、足寄と通って雌阿寒温泉に着いたのが3時過ぎ。まだまだ日差しが暑い。ここは夏には人がいっぱいいるが、秋口の今はさすがに人がいない。野中温泉にも人気がないので大声で案内を乞い、2階の6号室・8畳の部屋に無事落ち着いた。畳の匂いがするなかなかいい部屋だ。まず道中の汗を流すべく温泉へ。ここの温泉は洗い場も上がり湯も流しも無いただ浸かるだけの本当の温泉だ。昔入ったのが思い出され懐かしかった。すっかり温まって部屋に戻り6時の夕食まで時間を潰すのに苦労した。

・日記を書いたりタブレットでこれからの天気を調べて今後の予定を練ったりしているうちに6時近くになった。夏ならまだ日が高く明るいですが、もう薄暗くなってきた。そろそろ腹が減ってきて夕食を運んで来てくれるのが待ち遠しい。なんとこの宿は部屋食なのだ！

・夕食はお兄さんが部屋まで運んで来てくれた。生ビールに持ち込みの缶ビールも添えて宿の食事に下鼓（まあまあの食事）。あげ膳据え膳はやはり良いですね。

・明日の朝は早立ちなので朝食はお弁当を用意してくれた。宿の清算をして、明日のお弁当をもらい8時過ぎには布団を敷いて眠りについた。

・明日は晴天だが以後 19 日あたりまで天気が悪いという予報が出ている。後半の行動をどうしようか、などと思いながら眠りに着き熟睡した。



● 9月13日（金） 雌阿寒岳 天気・快晴

・13日の金曜日というのに快晴の天気に恵まれ、雌阿寒岳を十分堪能した。

・4時半起床。外は快晴。早朝に人の気配なくシンと静まりかえっている。昨夜用意してもらった朝食用の弁当はそのままザックに入れ、いつものようにサンドイッチと牛乳で朝食を済ませ、雌阿寒岳へ出発した。登山口はすぐ裏手にあり、以前も来ているので良く覚えている。入山届けにはまだ誰も記入していない、私が今日最初の入山者ということだ。

・6時10分入山。しばらくアカエゾマツの林の中を人の手足のように伸びる根を跨ぎながら歩く。もう秋だから花は無いがゴゼンタチバナが真っ赤な実を着けている。高度があがるにつれてハイマツの樹林帯になる。誰もいない静かな樹林帯を1時間ちょっと登ると4合目の岩場に出た。ここでハイマツ帯が終わって展望が一気に開けた。雲一つない無風の快晴。足元にはオンネトーが美しい水面を見せ、西方面に聳える日高、十勝、大雪の山並みが遠くに連なって見える。一番で登ってきたと思ったのに、この4合目におじさんが二人休んでいる！話を聞くと帯広から松茸狩りに来たという。「なに！どこに松茸があるの？」ハイマツに松茸が生えるという。これからこのハイマツ林の中に潜り込んで松茸探しだそうだ。

・松茸狩りのおじさんたちを後にして一人快晴の山を登る。4合目からは礫地の斜面で木がほとんど無く、所々にハイマツが点在する。絶景が背中を押してくれる。夏はメアカンキンバイやメアカンフスマが足元に咲いているのだが、秋の今は花は全く無い。暑いほどの日差しを受けながら7合目、8合目、9合目と砂礫の斜面を登り8:45 雌阿寒岳山頂に立った。



・無風快晴の山頂には私一人しかいない。360度の展望を独り占めた。



360度のパノラマ



噴火口が不気味に美しい



阿寒湖、雄阿寒岳と遠く斜里岳

眼下で白煙を噴き上げている噴火口が不気味に美しい。目を北東に転じれば、足元に阿寒湖、その向こうに美しい形の雄阿寒岳が聳え、遠くに屈斜路湖と斜里岳が見える。噴火口から聞こえる噴煙の音以外は聞こえない静寂な世界で、360度の絶景を30分ほど一人で楽しんでいたら、下から一人登ってきた。名古屋から来たというおじさんで、この後羊蹄山を登るという。どう見ても私の嫌いな百名山狙いだな。一人楽しんでたせっかくの静寂が破られたので、さっさと下山を開始した。下りはオンネト一方面へ。



阿寒富士に向かって下る

・正面に阿寒富士を見ながらの下りだが、まだ時間も早いしせっかくだから阿寒富士を登ってやろうと思い、阿寒富士登山口の分岐にザックを置いて空身で阿寒富士を目指した。現在9時40分、富士山頂まで標高差で約200m、往復で1時間位見ておけば良いだろう。形の良い阿寒富士だが砂礫の山で、富士山の須走り口を登っているような感じ。砂礫の斜面に一定の傾斜でジグザグにつけられた砂上の踏み跡をズルズル滑りながら登るので実にきつい。ひたすら足を運んで約40分、阿寒富士山頂に立った。こんなところに登るやつはいないので当然山頂には私一人。



阿寒富士山頂

立派な山頂標識の前で記念写真を撮り、10分ぐらい休んで下山した。これで今回の北海道秋山紀行では美瑛富士と阿寒富士という二つの富士山を登ったことになった。

・ザックを置いておいた登山口分岐に戻り、今登ってきた阿寒富士を眺めながら昼食を摂った。
昼食は野中温泉で作ってくれたお弁当だ、うまい。

・オンネトー湖畔までの下りは、夏にはいろいろな花が咲いている林の中を歩くが、秋の今は砂礫地帯に花は殆ど無く、イワギキョウが咲いていただけだった。

・湖畔の登山口に12時半に着いた。



オンネトー登山口

・ここから雌阿寒温泉までは東側の湖岸を少し歩いてから山道に入って約1時間歩く。雌阿寒温泉に着いたら野中温泉の前に今朝4合目で会った松茸取りのおじさん2人がいた。「松茸2本取ったぞ」と自慢げなのでどんなものか見せてもらった。なんと！立派な松茸ですばらしく良い香りを放っていた。

ハイマツにこんな立派な松茸が生えるんだ！

・さてすばらしい雌阿寒岳を歩くことが出来て大満足、今日は行き慣れた土幌温泉でゆっくりしよう。14時に野中温泉を出発し、昨日来た道に戻るかたちで土幌温泉を目指して走った。天気は快晴、明日から雨続きになるなんて信じられない。途中足寄で買い物をして4時前に土幌温泉に着いた。夏は満杯になる駐車場は空いてはいるが、それでも道内、秋田、東京、三河など日本各地のナンバーの車が10台以上止まっている。やはり人気の道の駅だけあるな。風呂に入り夕食を摂っているうちに、夏と違ってもう薄暗くなってきた。さっさと寝床を作り7時過ぎには潜り込んだ。

明け方雨が車の屋根を叩く音が大きかった。



イワギキョウ



野中温泉



ハイマツの松茸